

藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和3年2月25日
横浜市立藤塚小学校
学校だより 3月号
TEL (351) 2314
FAX (351) 7349

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>



友だちとの活動

校長 藤田 陽子

2月9日・16日にスポーツ委員会主催校内長縄集会を行いました。当日に向け、休み時間には、学級ごとに練習に取り組む姿が運動場いっぱい広がっていました。

ある学級の様子を見てみると、長縄の輪に連続して入る児童が続き、跳んだ回数を数える声はずんでいきます。ところが急に連続回数がとぎれてしまいました。次に縄に入る児童は、タイミングをつかむために一生懸命体を揺らしていますが、なかなか縄に入ることができません。回数を数える声のとぎれ、縄が地面を叩く音だけが響いてきます。その児童がやっと縄に入ることができたとき、その顔に浮かんでいたのは満足感ではなく悔しそうな表情でした。他の児童は、跳べた回数に夢中になっている様子でした。

その後も、何度もその児童の学級は練習に取り組んでいました。児童は、友だちが縄に入る様子を真剣に見ながら何回も縄に入る練習をしていました。やがて、その児童の後ろで一緒に縄のタイミングを目で追うもう一人の児童の姿に私は気づきました。その児童がいつものように体を揺らし始めると、もう一人の児童が背中に手を当てて「今だよ」という合図を出しています。さらにいつの間にか、回数を数える皆の声がその児童のタイミングを後押しする「いち、にの、さん!」という声に変わっていました。その児童は連続して入ることはまだ難しい状態でしたが、縄を跳び終わった瞬間、輝くような笑顔を浮かべていました。その児童と周りで応援していた友だちが次の目標回数や跳び方について夢中になって話している姿から、学級の子どもの大きな満足感が伝わってきました。

私が注目していた児童は、友だちの励ましを得た喜びを全身で表していました。また、周りの友だちもまた、がんばる児童の努力の過程に自分が加わることで、強い一体感や充実感を味わうことができたのではないかと感じました。そうした集団活動を通じ、一人ひとりには縄を跳ぶ力や連続して跳ぶ力を伸ばすことができ、集団としては一体感を土台としたより豊かな活動に向かう力を得るのだと思います。友だちとの活動を通じて個も集団も成長することができる、ということを改めて感じた一場面でした。

令和2年度は多くの人との接触や集団活動が制限された1年間でした。令和3年度も、感染症予防のための厳しい状況が予想されます。しかし、集団としての活動が難しいからこそ、その大切さを見つめ直すとともに、学校の中で集団としての学びをいかに工夫し保証していくかを模索し続けていきたいと考えます。そして、より豊かな集団としての活動や学びに挑戦し、その中で一人ひとりの力を伸ばしていく努力を職員一同重ねて参ります。

今年度の本校の教育活動に対する深いご理解とあたたかいご支援、本当にありがとうございました。

